

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	その他指導内容や指導方法において特徴ある工夫が行われている実践事例
-------	-----------------------------------

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

秋田県横手市

○学校名

秋田県立雄物川高等学校

○学校のURL

<http://omonogawa-hs.com/>

2. 学校紹介

○学級数

全学年各 3 学級 合計 9 学級

○児童生徒数

【全生徒数】 3 4 3 人（平成 2 4 年 5 月 1 日現在）
（内訳：1 年生 1 0 7 人、2 年生 1 1 9 人、3 年生 1 1 7 人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

真理と正義を愛し、勤労と責任を重んじ、社会に貢献する心身ともに健康な人間の育成をめざす

- （1）正しい判断力をもち、知性と創造力を発揮できる生徒の育成
- （2）心豊かで、思いやりのある人間性をもつ生徒の育成
- （3）環境に関心を持ち、美しいものに感動できる生徒の育成

○人権教育にかかる取組の全体概要

○ キャリア教育（パスカルタイム、パスカルⅡ）の充実による効果的实践

総合的な学習の時間「パスカルタイム」において、向上心と探究心をもって現代社会をたくましく生き抜く社会人の育成を目的に、生徒の社会的自立を促すプログラムを実施。平成 1 3 年から実施してきた「パスカルタイム」では、「みんな違ってみんないい」をキャッチフレーズに、構成的グループエンカウンター（「育てるカウンセリング」の手法）による心の教育を基にしたキャリア教育を実践し、人権意識の育成も含めて成果を上げてきた。平成 2 4 年度からは「セルフコーチング」と「シティズンシップ」の視点も加え、「パスカルⅡ」としてさらに充実させ、人間関係調整力の他、生徒の自己教育力や課題解決力を育む実践を行っている。

3. 特色ある実践事例の内容

(取組のねらい、目的)

向上心と探究心をもって現代社会をたくましく生き抜く社会人（職業人）の育成を目的とする。具体的には、「人間関係調整力」、「自己教育力」、「課題解決力」を身に付けさせ、社会的自立をめざす。

(取組を始めたきっかけ)

平成13年の創立50周年を機に学校改革が行われ、総合的な学習の時間「パスカルタイム」が実施された。当時の本校の課題は、「いかに生徒それぞれが自分に自信をもち、将来にわたって自主的で充実した生活を送れるようになるか」ということであった。そこで、人間形成も含めたキャリア教育ができる指導法として、國分康孝氏提唱の「育てるカウンセリング」を用いた指導を実施することとなった。

(取組の内容)

「パスカルタイム」とは、Psychoeducation（心の教育）、Assertion Training（相互尊重の自己主張）、Structure Group Encounter（構成的グループエンカウンター）、Social Skill Training（社会人としての基礎基本）、Career教育（キャリア教育）、Life Skill（ライフスキル）を学ぶ時間（TIME）の頭文字をとった「PASSCAL TIME」である。

激変する現代社会でたくましく生きていくためには、「アイデンティティー」、「エンプロイアビリティ」、「ヒューマンネットワーク」の三つの力が重要と考え、構成的グループエンカウターの手法を用いてこの三つの力を育てることで自己肯定感と自己効力感の向上を図った。平成17年度からは、「よりよく生きるための、心身ともに健康な人間育成」の理念を基に、さらに自分の人生や命を大切にするという意識を強化するため、「ライフスキル」を取り入れた。平成24年度からは、基礎学力向上から自信を促し、向上心と探究心を育む「基礎学力向上プログラム」を土台に、これまでの「パスカルタイム」に新たに「セルフコーチング」や「シティズンシップ」を導入し、未来型学力の育成をめざす「パスカルⅡ」へ発展・拡充させた。

具体的には、自分やクラスメイトをよく理解し、どう生きていくのがよいかを考えるため、さまざまなエクササイズや講演会等を行う。

<事例1>「初めての出会いを大切に」

1年生で実施。1年生の初めてのパスカルタイムで構成的グループエンカウターの実践。クラスやグループでのゲームやエクササイズを通して、クラスメイトとの交流を深める。生徒はコミュニケーションや一緒に考えたり行動したりすることが人間関係において大切であることを学ぶ。

<事例2>「ミニ内観」

3年生で実施。今までの人生で深く関わりをもった人（両親、教師、先輩、仲間）を一人一人思い出し、「してもらったこと」「して返したこと」「迷惑をか

けたこと」の三点を連想する方法。この実践は、自分がいかに周囲に支えられて生きてきたかの内観を通して、自分も他人も大切にしてこれからの人生を生きていくことの重要性に気付かせ、人権意識の育成にもつながっている。

<事例3>「薬物乱用防止教室」

全校で実施。学校薬剤師から薬物乱用やタバコ、酒の危険性について講話。生徒たちは、命の大切さを学ぶとともに、薬物乱用は自分も他人も傷つけてしまうことに気付き、人権との関わりについても学ぶ。

<事例4>ライフスキル「DVについて考える」

1年生で実施。DVやデートDVについて、外部講師による講話。DVに関する正しい知識を学び、これからの生活で「DVの被害者にも加害者にもならない」望ましい人間関係について考える機会とし、人権意識の育成につなげている。

<事例5>パブリックスピーチ

全校の朝のつどいで実施。ある回では吹奏楽部長の3年生がスピーチ。他の生徒たちは、部員同士の絆や団結力を強め、実績を上げている吹奏楽部の取組から仲間を大切にすることの素晴らしさを学ぶ。

(取組の主体や実施体制・取組の頻度)

これらの要素を高校三年間を通して年間計画に位置付け、学校教育全体を通して計画的に実施している。

取組は、全分掌、全職員による指導により実施。校門指導、PTAによる朝の一声運動、朝のつどい、スクールアイデンティティー集会など、年間を通じて行っている。

(取組を実現するにあたって課題となったこと、及びそれに対して講じた工夫)

「パスカルタイム」の取組による成果の一方で、次のような課題も出てきた。

- ・生徒の心は育ってきたが、可能性を広げようという向上心に乏しい。
- ・意欲はみられるようになったが、行動に結びつかない。
- ・基礎学力不足が目標設定の低さや自信のなさにつながっている。
- ・社会における市民としての在り方については考えが甘い。

全体として、「心が育ち、意欲は少しずつ出てきたが、受け身のタイプが多い」というのが本校の現状である。その根源にあるのは、「基礎学力の不足」やそこから来る「自信のなさ」にあるのではないかと考え、新たに「パスカルⅡ」を導入することにより、課題の解決を試みることにした。

すなわち、基礎学力向上プログラムを土台とし、これまでのパスカルタイムにセルフコーチング、シティズンシップを加えることによって未来型学力の育成を図り、「向上心と探究心をもって現代社会をたくましく生き抜く社会人（職業人）の育成」を目指している。

「パスカルⅡ」による雄物川高校のキャリア教育

目的

向上心と探究心をもって

現代社会をたくましく生き抜く社会人（職業人）の育成

人間関係調整力

自己教育力

課題解決力

パスカルタイム

アイデンティティ
エンプロイアビリティ
ヒューマンネットワーク
ライフスキル

セルフコーチング

自ら目標を設定し、行動する力の育成
教師によるコーチング
→セルフコーチングへ

シティズンシップ

マイスター制度
・社会人講師登録
ライフスキル
・地域合同避難訓練
・税・裁判員制度など
インターンシップ
ボランティア

基礎学力の向上

「基礎学力向上プログラム」を土台とし、これまでのパスカルタイムに「セルフコーチング」、「シティズンシップ」を導入して「向上心と探究心をもって現代社会をたくましく生き抜く社会人（職業人）の育成」を目指す（未来型学力の育成）

未来型学力

自分の能力を発揮し、職業に就くことや社会の課題を協働で解決する力、持続可能なライフスタイルを身につけて、社会的責任を学ぶ21世紀社会を作る学力

4. 実践事例の実績、実施による効果

パスカルタイムを実施しての教員へのアンケートから、次のような回答を得ている。

(生徒の変容)

- ・生徒たちが生き生きと学校生活を送り、部活動や学校行事においても生徒たちが中心となって積極的に活動するようになった。
- ・生徒を生かす場面を設定することで生徒が自己有用感を感じ、自分の居場所を見つけることができた。
- ・思いやりのある生徒や人の話を受容できる生徒が増えた。

(生徒間のトラブルや生徒指導上の問題行動の減少)

パスカルタイムを実施する前の平成12年度までは、問題行動の件数が平均すると毎年20件前後であった。実施した平成13年度には10件に減少し、その後増減を繰り返したが、平成19年度からは一桁に、そして平成22年度からは発生していない。

5. 実践事例についての評価

(実践の評価)

本実践が10年以上継続して学校全体で取り組まれ、成果に結びついていること。

(継続の要因)

- (1) 前年度の反省を生かして適宜工夫を加え、新たなことに取り組んでいること。
- (2) 学年や分掌の垣根を越え、全職員が共通理解の上でパスカルタイムとリンクした教育活動を展開していること。また、計画段階から学年や各分掌の意見が反映されていること。
- (3) 年度初めの教員研修会開催や中央研修会への教員派遣により、人事異動等で担当者が変わっても取組が継続できるようにしていること。

(生徒の感想) 一創立60周年記念誌から一

「パスカルタイムを3年間通して、友達との深い関係や自分の意見や考え方などがとても深まったのではないかと思った。また、社会人としての新しいスタートの準備も、このパスカルの時間に身に付けることができたと思う。一年生の自分と、この時間を過ごした今の自分とでは、一つ一つの目標や考え、意見、自覚などにおいて、以前とは変わった自分になっていると思う。一時間パスカルタイムを行うたびに成長できたことを実感している。三年間パスカルタイムをやってきて良かったと思う。」

(昨年度の保護者や地域住民からのアンケートから)

それぞれの項目の達成度で、「そう思う」、「ほぼそう思う」と回答した割合が、

「自立した社会人の育成」(95%)、「心豊かでたくましい生徒の育成」(93%)、「キャリア教育と人材育成」(93%)など、ほとんどの項目で90%を超える高評価を得ている。また、地域の企業、小・中学校へのアンケートでは、「挨拶、服装、行動等について、全般的にさわやかで好印象だ」、「学校に誇りと自覚をもって取り組んでいる生徒が多いように見える」、「生徒が生き生きと学校生活を送っているのがわかる」、「積極的に行動している様子が見られ、大変好印象をもっている」などの意見を得ている。

(今後の課題)

今後は、これまで以上に地域の教育力を学校教育に活かしていくために社会人講師登録(マイスター制度)を一層進めるとともに、生徒自身が地域に出向いて地域の方々と直接関わりをもつような双方向の連携を強化していきたい。また、あらゆる教育活動に人権尊重の視点をもち、自己と他者を認め合い尊重し合える人間関係構築に向けて、望ましい選択や判断・行動が出来るような教育活動を展開していきたいと考えている。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

秋田県立雄物川高等学校

体験的な活動等については、単発的なものに終わらせることなく、学校の人権教育全体の中での意義を明確にし、その成果を効果的に生かしていくことが重要である。

本事例では、「向上心と探究心をもって現代社会をたくましく生き抜く社会人の育成」という明確な目的の下、様々な取組が全教職員によって 10 年以上にわたり継続的に進められている。しかも、それぞれの取組は、年々改善が加えられており、生徒は、エクササイズの体験や各種の講演会への参加により、人間関係調整力や自己教育力、課題解決力等を身に付けている。

様々な人々との交流活動や体験活動は、人間関係を築く能力やコミュニケーションの技能、他の人の立場に立って考えられるような想像力等を培うことができる。人権教育を通じて育てたい資質・能力に関わる指導方法を検討する際に、参考となる事例である。